



鳥取県西部総合事務所米子保健所
医薬・感染症対策課医薬担当 兼
鳥取県中部総合事務所倉吉保健所

吉田 慧

愛媛県出身。2011年東京大学教養学部卒業。大学院進学後に医師を志し、医学部を再受験し中退。2019年鳥取大学医学部卒業。臨床研修を経て2021年10月鳥取県に入職。米子保健所、倉吉保健所での勤務を経て、2025年4月より現職。2026年3月鳥取大学医学部社会医学講座環境予防医学分野にて博士課程を修了。

公衆衛生医師として5年目になりました。公衆衛生の領域に進んで、日々さまざまな業務に関わり学ぶことができていることに感謝しています。公衆衛生医師として取り組んだ業務や思いについて、簡単に振り返ってみます。

入職まで

医師としてのキャリア形成に悩んでいたときに新型コロナウイルス感染症に関連した公衆衛生医師不足の報道を目にしました。社会と関わりながら文化・歴史・制度などを幅広く学びたいという思いや、医療資源の配置への関心もありました。専門医の取得や学位研究を経て、専門性を向上させたいという希望もありました。母校(環境予防医学分野)に相談し、ご縁もあって保健所医師・社会人大学院生となることになりました。

新型コロナウイルス感染症対応と研修派遣

2021年10月に米子保健所に配属されました。行政の仕組みへの理解が浅く、紙回覧・起案・資料伺など行政ルールに戸惑うこともありましたが、上司・同僚の方々から助言を頂きながら感染症対応を学びました。印象深かったのは保育園での感染性胃腸炎の集団発生への対応です。複数の施設への現地調査を行う中で、調査と感染対策の指導を通じて患者の発生を予防するという公衆衛生ならではの業務に改めて魅力を感じま

対策コース)、各種の健康危機管理支援チーム(DHEAT)研修、

感染症・IH EAT管理者マネジメント研修など、業務に直結する研修を多く受けさせていただきました。また、精神保健、健康づくり、食品衛生など、保健所の他部署でもOJTの経験をさせていただきました。入職間もない自分に期待し、さまざまな研修や経験の機会を与えてくださった上司に感謝しています。有事に備えた研修も多く、受講させていただいた内容を所属に還元しなければと責任も感じているところです。

保健医療計画と地域医療構想

2023年4月に倉吉保健所に異動しました。保健医療計画、地域医療構想といった二次医療圏全体の医療提供に関わる計画に、担当として関わることになりました。2025年4月に米子保健所に異動してからも保健医療計画、地域医療構想の担当となっています。関係する会議体(地域保健医療協議会全体会議 兼 地域医療構想調整会議、へき地・救急医療部会、

医療提供部会等)の開催を通じて、

各分野のキーパーソンの方々と意見交換をさせていただく機会に恵まれています。若手の年次から目上の方々との議論を重ねながら仕事に携わることができるようになりました。職員としての魅力と感じています。また、医療提供の現状把握や課題抽出には、病床機能報告・外来機能報告・かかりつけ医機能報告のほか、各種データの理解が欠かせません。さまざまなデータに触れながら5年先、10年先を見据えた関係者との協議を行うことができるのは、行政職員としてのやりがいの一つです。医療政策、社会保障、データ分析の手法などの知識を深めつつ、担当業務を通じて地域の保健・医療提供体制に貢献できればと考えています。

最初に入学した大学の卒業論文のテーマは環境政策における多様な利害関係者の合意形成でした。環境政策と医療政策でまったく分野は異なりますが、立場や利害の異なる関係者との協議を進めていく現在の業務は、当時の学びとつながってくるもののように感じています。

した。県型保健所では住民への直接サービスに関わる機会は多くないですが、住民の健康を下支えしているという思いで業務に取り組みめるのは感染症対応の経験が大きいと思っています。

2021年12月からは新型コロナウイルス感染症の対応に追われることになりました。入職後間もない時期に、積極的疫学調査の実施、受診・入院調整といった医療職であることで貢献しやすい業務が目の前にあったことはよかったように思います。また、他部署からの応援・外部委託・交代制勤務(3勤1休体制、時差出勤)の導入等で藤井秀樹・前保健所長の健康危機管理を一職員として間近で経験させていただいたことも貴重な学びでした。

2022年4月には国立保健医療科学院保健福祉行政管理分野分

社会医学系専門医プログラムのすすめ

2021年7月に鳥取大学と鳥取県において医療の体制強化に関する連携協定(公衆衛生)が結ばれ、公衆衛生人材強化事業の一環で、保健所に定期的に大学の先生が来訪され、業務やデータ分析について相談できる環境が整っています。行政・産業・大学など、所属を超えた研修の機会があり、大学と行政の連携が取れているのも鳥取県の社会医学系専門医プログラムの魅力の一つだと思います。プログラム修了に向けてご指導をいただいた指導医の先生方、大学院生としての学位研究のご指導をいただいた環境予防医学分野の先生方に感謝しております。若年成人の飲酒行動に関する疫学研究を通じて、疫学的思考や統計スキルを磨く貴重な機会となりました。これらの経験を業務に生かしつつ、さらに研さんを積みたいと考えています。私のように、希望があれば社会人大学院生として研究活動を行うことも可能であり、キャリア形成に幅広い選択肢が用意されています。

割前期(基礎)に派遣していただきました。研修では、公衆衛生行政、社会保障、健康危機管理、対人保健、組織経営といった多岐にわたる分野の座学・実習に取り組みました。教官・職員の皆さまは親切で、全国から集まった同期の方々は多様なバックグラウンドで、真摯に研修に取り組んでおられて刺激的な毎日でした。医学生時代から医学史に関心があり、逢見憲一先生の講義を受講できたこと、旧国立公衆衛生院の見学を通じて、日本の公衆衛生行政の発展の歴史を肌で感じられたことが特に印象に残っています。行政経験を数年積んだ今、もう一度受けることができたら新たな学びが多いだろうなど、翌年以降に県から派遣された先生方をうらやましく思うこともあります。

その他、結核研究所研修(医師・

公衆衛生医師としての入職を検討される場合には、ぜひプログラムでの研修を検討していただければと思います。

関心事

福祉保健部健康医療局健康政策課で実施している全県の特健診のデータ分析や、兼務先の倉吉保健所の職員として市町のデータ分析の支援にも関わっています。鳥取県では若手公衆衛生医師が増えつつあります。前任者がいない業務や、医師以外の前任者から業務を任せていただけるのは貴重な経験です。スキルアップをしながら業務の幅を広げ、地域保健に貢献できるような人材になりたいと考えています。

私事になりますが、現在3歳になる子どもを育てています。職場の上司・同僚の理解の下、家庭生活と両立しながらキャリアを継続できるのも公衆衛生医師の魅力の一つです。地域を問わず、公衆衛生医師の業務に関心を持つてくださる医学生・医師の方が増えることを願っています。私も説明会や実習等でお役に立てればと考えています。